
被害者の手記

肩あげポテト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

被害者の手記

【Nコード】

N7191B

【作者名】

肩あげポテト

【あらすじ】

俺はお菓子を食べている途中に殴り倒された。痛かった。死にそう
うだ。

痛い。背後から殴るなんて卑怯だと思う。

俺を殴った奴は何処へ行ったのだろうか。まだ部屋の中に居るのか、それとももう逃げたのか。それを確認することもできない。身体がいうことを利かない。

「うう…」

大声を出そうとするが噎れきった細い声しか出なかった。声を出す
と頭がガンガンしたのもう声を出そうと頑張るのはやめた。

頭を触ってみる。凹んでいた。みんなからは「綺麗な黒だね」と褒められていたが、今はそんな面影もなかった。

俺は部屋に居た所を襲われた。お菓子を食べている時に襲うなんて卑怯だと思う。

俺はおどろいた。振り向こうとした瞬間、スプレーを浴びさせられた。身体の動きが鈍くなった。相変わらず卑怯だ。

逃げようと走り出した瞬間、ベシッと鈍い音がして、背後から殴られたと気づいた。衝撃で俺は部屋の隅まで飛ばされた。

血を吐き出した。目は左目から血が出ていた。目が飛び出さなかっただけよかったと思うが、よく考えると全体的にはよくなかった。

「ぐっ…」

頭がガンガンした。脳の中で爆弾が弾けるような、そんな感じがした。もう俺は終わりか。親孝行はしていないなあ…。したかったな…。

そんな祈りは届く筈もなく、確実にタイムリミットは近づいていた。

両腕の感触がなくなった。これが『死』かと思う。これが『死』といえものなのだ。暗闇に身を委ねる、これが死というもののだ。

おれはまだしにたくない。おやじやおふくろはかなしむだろう。おとうとはないてしんでしまうかもしれない。だからおれはしんじやいけない。いきてやる。いきてやるぞ！

*

「とどめはさしたよ、これで確実に死んだ」

彼はこつちをむいて微笑んだ。ありがとう、と私は返した。

「じゃ、こんどなんか奢ってもらうからね？」

そんな話は聞いていない。だめ、と返すと彼は、冗談だよと笑い、忌々しい害虫の死骸を袋の中に入れて、新聞紙と一緒にゴミ箱に放り込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7191b/>

被害者の手記

2010年10月8日21時08分発行